38 ことばのきまり 敬語（P152〜155）

確認問題

1 (1) ウ (2) ア (3) イ (4) ウ (5) イ

《解説》
(1) 「言う」のへりくだった言い方です。
(3) 「お〜(に) なる」の形になっていることに注目しましょう。
(4) 「お〜する」の形になっていることに注目しましょう。
(5) 「来る」相手をうやまう言い方です。

2 (1) イ (2) ウ (3) ア

《解説》
(1) 謙譲語では「申す」「申し上げる」になります。
(2) 謙譲語では「いただく」「ちょうだいする」になります。
(3) 謙譲語では「まいる」になります。「参上する」は古い言い方なので、現在ではあまり使われません。

3 (1) お (2) お (3) ご (4) お (5) ご (6) ご (7) お (8) ご

《解説》
(1)〜(8) 「お休み」「ご友人」というように、「お」と「ご」のつけ方の基本ルールは「お→和語につく」「ご→漢語につく」になります。しかし「お天気」「ごゆっくり」のように、例外もたくさんあるので、ふだん読んだり聞いたりすることばに注意して、ひとつひとつ覚えていくようにしましょう。

4 (1) ア (2) イ (3) ウ (4) イ

《解説》
(1) 敬語は、使う人の立場によって使い方が変わります。自分の父親のことをほかの人に言うのであれば、へりくだった言い方（謙譲語）を使いますが、人の父親のことを話す場合は、うやまう言い方（尊敬語）になります。
(2) 通常の文では「もらった」になるので、イの「いただいた」があてはまります。
(3) 目上の先生に対して、自分の身内である「母」については、へりくだった言い方を使います。
(4) 「お〜する」の謙譲表現があてはまります。また、「閣下」も、軍人や役人など、位の高い人をうやまっていうことば（敬称）です。

練成問題

1 (1) エ (2) ウ (3) ウ (4) ア

《解説》
(1) ア〜ウは「お」「ご」をつけてていねいな言い方をする文になっています。エだけが「おっしゃる」という尊敬語の一部分になっています。
(2) ウは「する」の謙譲語です。ほかはすべて尊敬語になっています。
(3) ウは「見る」の謙譲語です。ほかはすべて「ます」を使った丁寧語になっています。
(4) アは「言う」の謙譲語です。ほかはすべて尊敬語になっています。

2 (1) お帰りになりました (2) ありがとうございます (3) いただいた (4) うかがう

《解説》
(1) 「帰られました」でも正解です。

3 (1) いたし (2) 申し（上げ） (3) まいり (4) ちょうだい (5) イ

《解説》
(1) 「いたす」の形が変わったものです。
(2) 「申す」「申し上げる」の形が変わったものです。
(3) 「まいる」の形が変わったものです。
(4) 「ちょうだいする」の形が変わったものです。
(5) 「ちょうだいすることが」「いただくことが」としても正解です。

4 (1) ア (2) エ (3) イ (4) ウ (5) イ

《解説》
(1) 身内の「父」のことを人前で話す場合はへりくだった言い方をします。「おっしゃって」は尊敬語なので、ここではふさわしくありません。
(2) 目上の「先生」に対しては、うやまう言い方（尊敬語）を使います。「申す」はへりくだった言い方なので、ここではふさわしくありません。
(3) 身内の「母」について、「いらっしゃる」という尊敬語を使うのがふさわしくありません。
(4) うやまった言い方の「お〜(に) なる」は、自分に対しては使わないので、ウはふさわしくありません。
(5) 「さしあげる」は謙譲語なので、目上の「先生」の動作には使いません。

5 (1) イ (2) ウ (3) ア (4) エ (5) オ

《解説》
(2) 「ございます」がついて、ていねいな形になります。
(3) 「ちょうだいした」でも正解です。
(4) 「お聞きする」でも正解です。

《解説》
(1) 「知っていますか」というときは、「ご存じですか」となります。
(5) 「ございます」は、「(そこに) ある」という場合だけでなく、「である」という場合にも使います。